

## 親ががんになったとき、子どもにどのように伝え、支えるか②



年齢	病気や病状の理解	伝えることで予想されることおよびお子さんへのサポート
乳児期 (0～2歳)	親の不安な気持ちを感じ取り、寝られない、食べられない、泣き止まないという表現をすることがあります。	すぐ泣く、怒る、笑うなどの感情の起伏を見せることがある。
幼児期 (～6歳)	親の身に起こったことを自分のせいだと感じ取ることがあります。また、自分の生活パターンの変化を気にして、親の変化を感じとることがあります。  「わたしのせい？いい子でいたら、病気は治る？」 「ママがいなかったら、幼稚園お休みするの？」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキンシップをだいじにしながら接する。</li> <li>・年齢より幼く振舞い、甘える様子が見られることもあるが、その様子を否定しない。現状を誤解している時には、分りやすく「それはちがうよ」と説明し、「聞きたいことがあったら、いつでも聞いていいよ」と伝える。</li> </ul>
学童期 (～12歳)	家庭の変化に敏感になり、気持ちや行動の表し方が変化することがあります。友人と異なる状況に孤独感を感じたり、思い通りにならない状況へどのように対応して良いかわからない気持ちを抱くこともあります。  「自分が学校に行っている間に何かあったら、どうしよう」「何を秘密にしたらいいんだろう」	<p>周囲の変化に敏感であるため、「病気はいつ治るの」「一緒に、夏休みは〇〇できるよね」などと、間接的に病気に関する不安を質問してくることもある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現実に起きていることを具体的に伝える。</li> <li>・子どもが親のために出来ることを一緒に考え、実行できるように励ます。</li> </ul>
思春期 (12歳～)	自分の居場所を家庭の中より、同年代の仲間や活動を通して見出す年代であるため、周囲の大人を寄せつけない態度を見せることも多いが、現実をきちんと理解したい気持ちがあります。 自ら情報収集をしていることもあります。	<p>親の病気について、何も気にしていない様子を見せたり、同年代の仲間との活動を優先して過ごす姿がみられることがある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・親が伝えた方がいいと思う現状については伝える。</li> <li>・何か聞きたいことがあるかないか、また、お見舞いに行くか行かないか等、常に気持ちや行動を決める選択肢を与える。</li> </ul>